

大豆品種「リョウユウ」の栽培法

【概要】

1 地帯別播種適期及び栽植密度

大豆品種「リョウユウ」の各地帯における播種適期と栽植密度は以下のとおりです。

地帯	播種適期(月/日)	栽植密度(本/10a)	播種量(kg/10a)
県北部	5/20 — 6/5	15,000 — 20,000	5.0 — 6.6
県中部	6/1 — 6/10	10,000 — 15,000	3.3 — 5.0
県南部	6/5 — 6/20	7,000 — 15,000	2.5 — 5.0

※ただし、県南部で6/20頃に播種する際の栽植密度は10,000-15,000本/10aとします。

- (1) 適期に播種することにより、収量を確保でき大粒割合が高くなります(図1、2)。
- (2) 成熟期10日後以降から裂莢株率が高くなるため、収穫適期になり次第、速やかに刈り取ってください(図3)。

2 留意事項

- (1) 施肥及び病虫害防除等の栽培管理は「リョウホウ」及び「ナンブシロメ」に準じて行ってください。
- (2) 立枯性病害抵抗性が「やや弱」なので、ほ場の排水対策を徹底するほか、被害履歴のあるほ場での作付けは避けてください。
- (3) より寄生性の強いダイズシストセンチュウレースの出現リスクを避けるため、他作物との輪作体系を組み、大豆の連作は行わないでください。

【試験データ等】

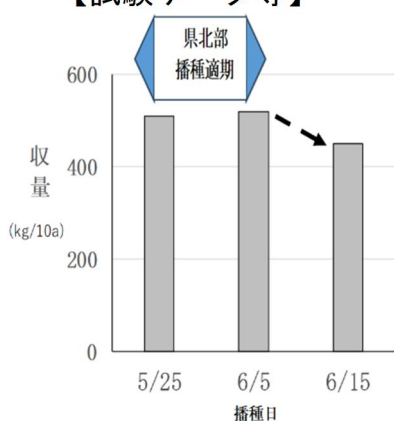


図1 播種期別の収量
(軽米R3~6)

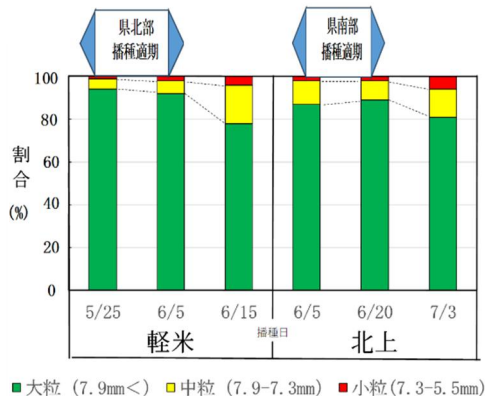


図2 播種期別の粒大割合
(軽米R5~6、北上R6~7)

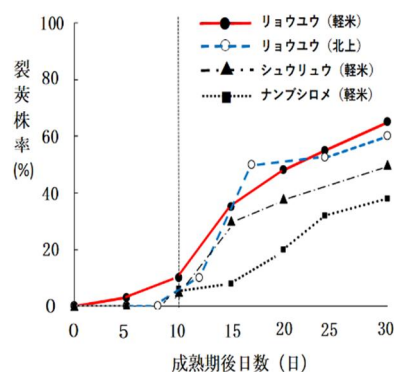


図3 成熟後日数と裂莢株率の関係
(軽米、北上R6~7)

【令和7年度成果】大豆品種「リョウユウ」の栽培法 (R7-普-03)